

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		健康関連の生活の質(Health-related Quality of Life)が環境に配慮した行動様式に及ぼす影響に関わる研究			
研究テーマ (欧文) AZ		Association between health-related quality of life and ecological behavior			
研究氏代表名者	カナ CC	姓)ヤマザキ	名)シン	研究期間 B	2005 ~ 2006 年
	漢字 CB	山崎	新	報告年度 YR	2006 年
	ローマ字 C Z	Yamazaki	Shin	研究機関名	(独)国立環境研究所
研究代表者 CD 所属機関・職名		環境健康研究領域 環境疫学研究室 研究員			
概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)					
<p>【背景】環境に配慮した行動様式(環境行動)は、エネルギー消費の抑制、ひいては二酸化炭素の排出抑制に関連する。先行研究において、環境行動と関連する要因として、性別、年齢、社会経済階層、子供の有無などが明らかにされた。本研究では、精神的および身体的健康状態の概念を含む健康関連 QOL と環境行動との関連性を明らかにすることを目的とする。</p> <p>【方法】日本全国から層化二段抽出された 15~79 歳の 2400 名を対象に調査票による調査を実施した。調査票には、対象者の特性要因(性別、年齢、職業、等)、健康関連 QOL の尺度である SF-8、および、環境に配慮する行動に関する質問(使用していない電灯を消したか?洗面時に節水したか?冷暖房等の空調を弱めたか?等)が含まれた。SF-8 は規定のアルゴリズムに基づき、身体的サマリースコア(PCS)および精神的サマリースコア(MSC)を求めた(高スコアほど QOL が良い)。被説明変数を環境行動の有無、説明変数を PCS、MCS、および、対象者の特性要因として、ロジスティック回帰分析により、PCS および MCS10 ポイントあたりの、環境行動をとるオッズ比を求めた。</p> <p>【結果】調査票の回収数は 1053(44%)であった(男性 49%、平均年齢 48 歳(SD=17))。PCS および MCS スコアは、それぞれ 49(SD=7)および 48(SD=7)であった。単変量解析では、女性、孫・子あり、高学歴群で環境行動を行っている割合が高かった。ロジスティック回帰分析の結果、緒因子の影響を調整してもなお、PCS が 10 ポイントあたりの環境行動(使用していない電灯を消す)をとるオッズ比は 1.2 倍(95%信頼区間: 1.0-1.5)であった。</p> <p>【結論】健康関連 QOL のうち、特に、身体面の QOL が悪い状態にあるグループでは、環境に配慮した行動を行わないことを示した。この関連性の因果推論は今後の課題である。</p>					
キーワード FA	環境行動	健康関連 QOL	生活	身体機能	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA				研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC				シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題GB								
	著者名 GA		雑誌名 GC						
	ページ GF	～	発行年 GE					巻号 GD	
雑誌	論文標題GB								
	著者名 GA		雑誌名 GC						
	ページ GF	～	発行年 GE					巻号 GD	
雑誌	論文標題GB								
	著者名 GA		雑誌名 GC						
	ページ GF	～	発行年 GE					巻号 GD	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 HB		発行年 HD					総ページ HE	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 HB		発行年 HD					総ページ HE	

欧文概要 EZ

The pro-environmental behaviors of individuals affect the global environment. Evaluation of the association between health status and pro-environmental behavior could provide important information when planning combined economic, environmental, and public health policies. We examined the association between health status using the SF-8 Health Survey (SF-8) and pro-environmental behavior. A total of 2400 people aged 15 years or older were selected from the entire population of Japan. A self-administered questionnaire included the SF-8 and eight items on pro-environmental behaviors was distributed in May 2006. Logistic regression techniques were used to estimate the associations between the physical summary component score (PCS) or mental summary component score of the SF-8 and pro-environmental behavior. With respect to the pro-environmental behaviors of “turning off a light fixture that was not needed”, “separating empty plastic food containers for recycling from other trash” and “separating empty metal cans, empty glass bottles, and used paper for recycling from other trash”, the age- and sex-adjusted odds ratios of having the pro-environmental behavior for each 10-point increase in PCS were 1.205 (95% confidential interval: 1.001-1.450), 1.252 (1.010-1.551) and 1.245 (1.021-1.519), respectively. Pro-environmental behaviors were associated with the physical health status of individuals.